

研究拠点 気仙沼大島漁協文庫の管理と活用

被災資料の修復と 活用に向けての新たな取り組み

田上 繁

2016年度の活動としては、去る2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災した気仙沼市大島漁業協同組合資料約5,000点の整理作業を2度にわたって進めた。一連の作業は、建築班によって建設された現地の「大島漁協文庫」で行われた。現地作業には、担当所員、歴史民俗資料学研究科（以下歴民）院生、日本常民文化研究所職員など総勢13名が参加した。

1回目の調査は、先発隊として職員の窪田涼子と院生3名が2016年11月18日に現地入りし、翌19日には田上繁をチーフとする本隊が合流し、21日まで作業を続けた。作業内容は、地元の千葉勝衛氏や関係者と連携を取りながら、「大島漁協文庫」に開架されている資料の状況確認と簡易な修繕、および仮目録のチェックなどが主たるものであった。今回の調査で特筆されるのは、職を得て専門的な資料整理技術を習得した現役の歴民院生が参加され、高度な技術を他の院生たちに伝



写真1 気仙沼大島漁協文庫



写真2 地元の千葉勝衛氏との連携（2016年11月）



写真3 文庫の資料整理作業（2017年3月）



写真4 資料の修繕作業（2017年3月）

授してくれて作業を進めることができたことである。とくに、錆びたホッチキスの針やクリップの除去の仕方、ばらけている資料の紙縫を使つての成形など、今後の作業に有益な方法を参加者が体験できた。

2回目の現地調査では2017年3月1日から3月3日まで、歴民院生などの参加を得て、前回同様の形で調査を実施した。3月1日に田上と職員の越智信也の2名とともに、強い熱意をもって参加した中国留学生の院生等も作業に加わった。この現地作業においても、「大島漁協文庫」に収められている救出資料の整理と錆びたクリップ等の除去作業を進めた。

この現地作業では、安室知所員をチーフとする共同研究「海域・海村の景観史に関する総合的研究」のメンバーも、2017年2月28日から3月3日の日程で、現地で調査を行っており、院生による漁場図等関係資料の撮影が行われた。さらに、建築班の重村力常民研客員研究員も現地入りしたので、それぞれ連絡を取りながら文書班の作業を進めた。作業中、漁業組合関係者の水上忠夫氏と村上俊一氏、郷土史研究者の千葉勝衛氏の3名が来訪され、今後の「大島漁協文庫」の運営方法などについて話し合いがもたれた。また、外畑の小山由紀子氏からは、被災所蔵資料の整理、目録取り作業を進めてくれるようにとの依頼があった。

大島漁協文庫建設班 2016 年度の活動

重村 力

建築グループは、2016年度、これまで懸案となっていた西日除けのルーバー設置作業を行った。工学研究科大学院生3名（大岡・足立・曳田）らの協力により、2016年4月にルーバーを大学で制作し、5月6日から5月8日、2泊3日の日程でルーバーの設置ワークショップを行った。ルーバーの間隔が適切になるように、発泡スチロールでこれを養生していたが、ほぼ固定した11月19日から21日に発泡スチロールを取り外す作業を行った。2017年2月28日から3月1日には、ルーバーに不具合が生じていたため修理と改善を行った。

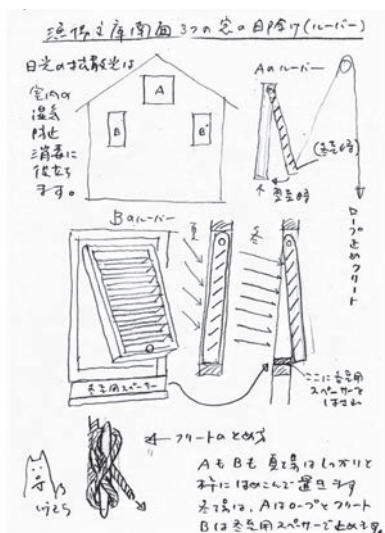


図1 水平ルーバー指示書



写真5 垂直ルーバーの設置